

カトマンズと目玉寺

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン
理事長 マダーブ ナラエン マナンダール

以前、カトマンズ（町は世界遺産となっています）をネパールと呼んでいた時代がありました。地方のお年寄りにはカトマンズに出かける時には、ネパールへ行って来るねと言って出かけることがあります。昔からの習慣や地方より栄えているためでしょうか。

カトマンズ市のど真ん中にカスタマンダップ（木の院）という寺院があります。これは12世紀に一本の巨大な木で町の中心に、巨大なパゴダスタイルのお寺を建て、それ以来カトマンズの町の名の由来となったのです。古代のサンスクリット語でカスタマンダップ、そして現ネパール語でカトマンドゥと呼ばれます。

このカトマンズの西にある丘に、一つのみ玉寺院があります。これは世界遺産として指定されており、目玉寺と名前が付いたのは寺の四方に巨大な目が付いており、これは仏様は常に四方を見て、人々のことを見守っているということなのです。この巨大仏塔がある丘からは街を一望できるので、最も有名な観光スポットになっています。正式名称はスヴァヤンブーですが、丘には多くの猿がいるためモンキーテンプルとも呼ばれています。『スヴァヤン』とは自己（存在）そして『ブー』とは地球（大地）のことであり、目玉寺を中心とする丘には、多くの仏像、建物やストゥーパなどが設置されています。この丘を訪れば、ネパール人の生活は、いかに多くの宗教と深く関わっているかが見てとれます。

この寺院は仏教徒にとって聖地であり、4月末から5月初めにかけて行われる仏の生



誕祭、そして8月の満月が始まる2週間前から約一ヶ月間グンラ（GUNLA）といい巡礼が訪れます。生誕祭には世界中の仏教徒たちが集まり、盛大に仏教生誕祭を祝います。そしてグンラには国内から毎早朝、数千人の信者たち（個人・グループで）が訪れます。宗教音楽を楽団で叩きながら賑やかに訪れます。多くの信者は寺院の表の365段の階段を登るのですが、老人や身体障害者は裏道で、車やバイクで登ります。2000年以上も前に建てられたストゥーパ（率塔波）は仏教徒にとって大切な聖地であり、巡礼たちは丘にあるストゥーパを巡る者とストゥーパの麓を一周してお参りする者がいます。熱心な仏教徒は五体投地する者もいます。

丘にはチャイティヤと言われる仏教のストゥーパやヒンドゥー教の寺院も多くあります。ストゥーパは本来、仏の骨が中に埋められているもので信仰の対象となっています。仏教の一つの宗派のラマ教（チベット仏教）もあります。国内にはイスラム教徒やキリスト教徒も少数ですがあり、ネパールは多くの宗教が共存している寛容の国なのです。